

朗読劇「顔・声・そしてひとりの物語」

A わが友ジャンヘ

アリー・アブー・ヤースィーン

二〇二三年十月十八日

ガザについてなにか綴って欲しいというあなたの手紙を読んだ時、いつもならすぐに返事をするのに、今回は何日も沈黙してしまった。今は言葉がない。なぜって？

今朝、狂ったミサイルが隣の家を破壊し、その瓦礫が我が家に飛び散ったにも関わらず、私と家族が奇的に生き延びたからかも知れない。

今の状況があらゆる言葉を凌駕してしまっているからかも知れない。

或いは、もう語ることに意味があると思えないからかも知れない。私たちは七十五年以上、イスラエルによる日常的な殺人、包囲、そしてテロにさらされてきた。その度に、自分たちの正当な権利について声を上げてきたのに、誰も答えてくれなかったではないか。

友よ、昨日、イスラエル軍はガザのアル・ハリール病院を爆撃し、現時点で五百人以上が殉死している。彼らはバラバラに切り刻まれ、肉の山となった。(中略)

M 「あなた、そこに転がっている手を私に頂戴。指輪でわかったの、それは娘の手。今朝、私が椅子に座るのを助けてくれた手。テレビを付けてくれた手。

娘は家を出る前に私にキスをしてくれた。いつも私を優しく抱きしめてくれた。髪をとかし、爪を切ってくれた。その手は、私の力の源だった。

娘に最後のキスをさせて頂戴。そうすれば、私は娘の身体の破片をこれ以上探し求めなくてすむから。」

A 友よ、私はもうなにを書けばいいのかわからない。これが「言葉を綴る」ことだと言えるなら、あなたの周りの人に読んで聞かせて、私からの感謝の意を伝えてほしい。大きな人間らしい心を持った、誠実で自由な人間は、近頃とても少なくなってしまったから。

この手紙をガザから、愛してやまなかったパリへ。好きだったラヴァルへ。いつか会おう。この地球上の他の住民のように私も自由になった時に。

D 一昨年の十月に始まって今も続いているイスラエルのガザへの攻撃ですよね。

ハマスがイスラエルの人を殺して人質も取ったからイ



スラエルが反撃したんですよ。

B 直接の引き金になったのはそれだけど、そんな単純なことじゃないですよね。

C 今の手紙の文にもあったよね「私たちは75年以上、イスラエルによる日常的な殺人、包囲、そしてテロにさらされてきた」って

A そう、パレスチナ人は何十年前からイスラエルによって支配され、自由を奪われ、難民キャンプの中で常に銃撃や暴力の恐れの中で暮らしてきたの。

そして、この二年近くにわたるイスラエルの爆撃で約六万二千人が殺され、九割の人たちが住むところをなくしているの。殺された人の内、約二万人が子ども。さらにイスラエルが食料などの支援物資を入れさせないから栄養失調で死亡する子どももたくさんいるの。

B それでも五月半ばまでは国連が中心になって食料などを配っていたけど、今はアメリカとイスラエルが主導してその代理の団体がやっているんですよ。

C 場所も遠くの、住民を強制的に追い出した場所、たった四カ所の配給所しかないんですよ。

B 更に時間が決められていてそれより早く行ったり場所がちよっとずれたりすると、銃で狙い撃ちされるんだと・・

C すでに五百人以上が殺され四千人近くがケガさせられているって。

A この配給システムは「食料がなくて飢えるか、わずかな食料のために命を懸けるかの二者選択だ」って言われているの。

B 援助に見せかけた虐殺だともいわれていますよね。

C 二十二日の国連の発表によると、ガザ市は「飢饉」の状態になったって書いてありましたよ。

D 「飢饉」の状態になったってどういうことですか？

C 本当に食べ物が無い状態なの。そういう食糧がなくて危険な状態を五つの段階で示しているんだけど、その内の一、番深刻な段階のことだよ

E 飢饉というと、歴史で習った江戸時代の四大飢饉とかを思い出しますよね

B そう、普通は冷害とか雨が降らない干ばつとか火山の噴火とか、自然災害で作物が実らなくて多くの人が飢え死にするというのを思い浮かべるよね。

D それが人間の手によって行われているんですよ

C ガザ市では人口の四分の一にあたる五十万人がその状態にあるんですよ

E パレスチナ問題ってなんか難しくてよくわからないんですよ。



A 長くて複雑な問題で簡単には話せないんだけど…

(地図) ここがパレスチナと呼ばれている一帯で三つの宗教、ユダヤ教。キリスト教・イスラム教の聖地なんだけど、ずっとアラブ人、つまりパレスチナ人と呼ばれる人たちが暮らしていたの。

第一次世界大戦のときにイギリスが自分の国の利益のために、そのアラブ人に対して、独立したアラブ人国家を作らせることを約束し、ほぼ同じ時期に、そこに移住してきたユダヤ人に対しても、国家の建設を支援すると約束したの。

D え?! そんな無茶な!!

E 酷い!

A そして、第二次世界大戦直後の一九四八年、ここにイスラエルというユダヤ人国家ができた。そこに住んでいたパレスチナ人は当然これに反発した。

D 当然だよ

E なんでアラブ人が住んでいるところにユダヤ人国家を作っているのよなんて言ったんですか?

B ドイツのヒトラーがユダヤ人を絶滅させようとしたホロコーストと関係がありますか?

A そう、その負い目があったってどこかにユダヤ人難民たちをまとめて国を作らせなきゃという考えがあったんだよ。

C パレスチナ人には関係ないのに追い出されたわけですよ。

(変遷の地図)

A 左は第二次世界大戦が終わった時一九四六年のパレスチナ。隣は次の年の国連の分割案。国連の特別委員会は反対したんだけどアメリカとかの大きな、力のある国が裏で多数派工作をして

D つまり小さな国に働き掛けて、仲間に入れちゃうんですよ。

A そう、それで成立させてしまったの。

B 人口的にもユダヤ人はアラブ人の三分の一の人口しかないんですよ。

E 当然パレスチナ人は怒りますよね。

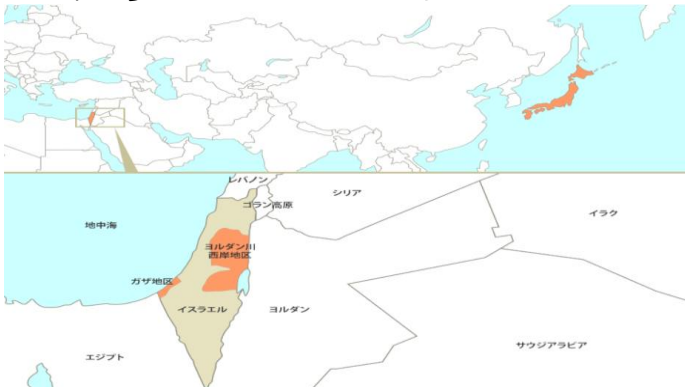
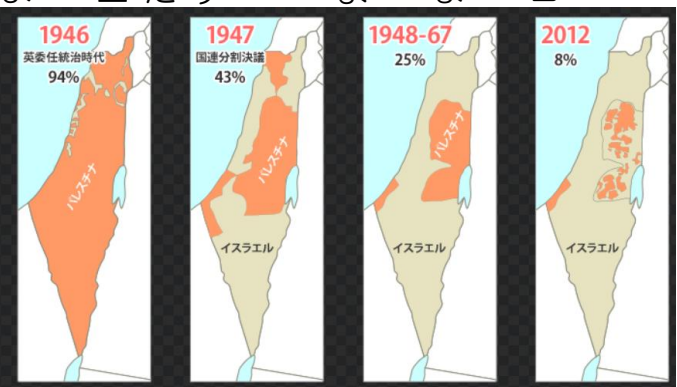
D それで戦争が起きた。

A その第一次中東戦争の結果、パレスチナ人九十万人が故郷を追われ、難民キャンプに逃れた。それが次、右から二番目の地図。その時からずっとパレスチナ人はイスラエルによる残虐な、人間とは思われない支配を受けている。その後、何度も中東戦争が起きて。パレスチナ人の住めるところは狭められ、移動も禁止されている。一番右が2012年。ここまで奪われてしまった。

B 今はさらにごく一部の小さな地域に移動させられている…

A 2001年9月にニューヨークで同時多発テロがあったというのは習ったでしょ? その頃は自爆テロのニュースをよく耳にした。

D 自爆テロ?



C 自分の体に爆弾を巻きつけて人ゴミや目立つところに突っ込むんですよ。
E どうしてそんなことをするんですか？

A パレスチナでの自爆テロについては、次のような言葉があります。

「家族を殺され、家や生活の場を破壊され奪われた絶望と怒りのために自爆するのです。ユダヤ人は世界中からやってきて、私たちの土地を奪っています。自爆攻撃はこれに對して「ノー」という唯一の手段なのです。私たちには戦車も戦闘機もありません。自爆だけが「ノー」と表現する手段なのです」

D イスラエルの人たちは、パレスチナのこういう状態をどう思っているんですか？

A 七月下旬にイスラエルで世論調査をやったの。「ガザの今の状況について苦痛に感じるか？」って。イスラエルでは人口の七割をユダヤ系の人々が占めているんだけど、そのユダヤ系の人の中で「今のガザの状況が全く苦痛ではない」「特に苦痛ではない」と答えた人がどのくらいいたと思う？

C ん・・・。半分くらいいたとか？

A 74% 「イスラエル軍は倫理的な軍隊である」に對して「強く同意する」または「ある程度同意する」と答えた人が・・・92.5%！

全え！

E 政治家の人たちは別としても、イスラエルの普通の人たちはどうしてこんな酷いことを自分の国がやっても平気なんだろう

B 教育が大きいよね。この本「国のために死ぬのは素晴らしい？」を読んだんだけど

C あ、イスラエル人のダニーさんだよね！四十年くらい前に日本に来て家具職人をしながら各地で講演をして反戦や反原発の活動をしている方だね。

B うん、イスラエルでは、地理や歴史の教科書では戦争前の地図は載せないで、奪った土地は元々イスラエルものであったように教えられるの。そして「アラブ人はで敵で戦争が好きな悪人」だから絶滅させねばならないと教えられるんだって。

D あ、そういえば、日本でも第二次世界大戦のときはそうだったって聞いたことがあります。

E 今だって、南京大虐殺はなかったとか、関東大震災の時の朝鮮人虐殺はなかったとか本気で言ってる人がいるよね。

D 教育って本当に大切ですね！

E そして怖い・・・

C そうだ！パレスチナに関して新しい動きがありましたよね！

E どんな動きですか？

C フランスがパレスチナ国家を承認するって言ったんですね。

D え？今までパレスチナって国じゃなかったんですか？

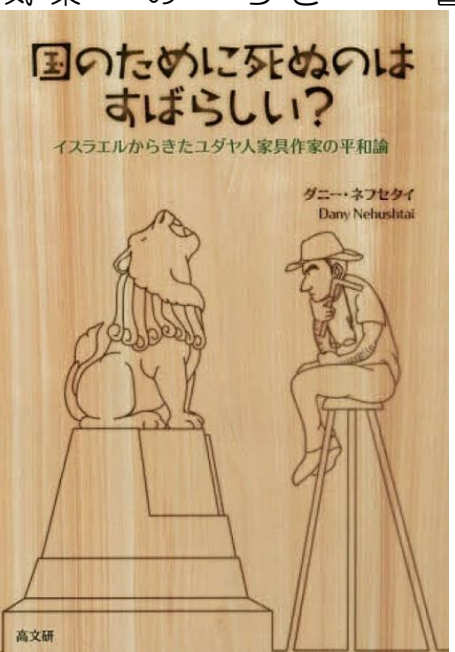
A 国連加盟国の内、147か国は、パレスチナを国家として認めている。

C 国連加盟国って全部で何か国ですか？

A 193

E じゃ、四分の三以上が承認してるんですね？！

D 計算速い！



A だけど「五つの常任理事国」はどれも承認してなかったの。五つの国、どこだかわかる？
(みんなで言う)

B 常任理事国はすごく力が強いんですね

A そう、一か国でも反対すると決議ができないの。その五カ国の中のフランスとイギリスが

C 常任理事国じゃないけどカナダとオーストラリアもですね

A そう、フランス、イギリス、カナダ、オーストラリアというこの四つの大きな国が、イスラエルが方針を変えない限り、九月の国連総会でパレスチナを承認すると言ったのです。

D 日本はどうなんですか？

A 日本も、パレスチナ問題は二つの国家で話し合って解決するしかないという姿勢だけど、「総合的な検討をしたい」ってあいまいなことを言ってる。なにしろアメリカの顔色を見ないと決められない国だからね・・・

C 頑張らなくちゃね！

B 今イスラエルがやっているのはパレスチナ人に対するジェノサイドだといわれますね。

E ジェノサイドって大量虐殺のことですよ？

A ある人種や民族などをすべてまたはほぼ破壊しようとしてもものすごい数の人たちを殺すことです。

以前はドイツのヒトラー、ナチスがユダヤ人を全滅させようとしたのがよく知られているけど他にもアフリカのルワンダの虐殺とか他にもあります。

C 自分の国、というより自分の民族が一番で他を排除しようとする考えって、今の日本の「ジャパンファースト」もそれに近くありませんか？

A そう！この「ジャパン」って日本国籍を持っているいわゆる「外国人」は含まれないんじゃないかって言われている。この「民族第一主義」が支持を集めている今の日本の状況はナチスドイツの始めの頃の状況にとっても似ているっていう人もいるの。

B 何とかしないといけませんね

(みんなしばらく沈黙・・・)

E そして、そのつらい思いをしたユダヤ人国家イスラエルが、その痛みをもう繰り返させないと思うのでなくて他の民族に行うって・・・

D 広島と平和公園にはプレートに「安らかに眠ってください。過ちは繰り返しませぬから」って書いてあるのに。

A 今日はこのあと森瀧さんが「核と人類は共存できない」という題でお話しくださるけど、広島・長崎で被爆経験をした子どもたちの声を読んでみましょうか

(「原子雲の下より」1952年)

D げんしばくだん 坂本 はつみ 小学三年 広島

げんしばくだんがおちると

ひるがよるになって

人はおぼけになる

(「原子雲の下に生きて」1949年)

B 深堀葉子 十一歳 長崎

あくる日 私たちは



姉さんをさがしに
浦上へでかけた。

・・・死がい 死がい 死がい 死がい
足もとに死がい 右にも死がい
左を向けば死がい・・・
私は死がいにかこまれて
足が動かなくなり

その場に 立ちすくんだ。

目がまわって 気を失いそうになった。

その時に 死がいの群れの中から手が一本

スウツと あがって「水・・・」といった。

そして その手がクタツと下に落ちた。

長崎 辻本一二夫（ふじお）の手記より

小学校の屋上の見張りのおじさんが、鐘をたたいて叫んだ。「――敵機――」

僕は、真っ先に、おばあさんの手を捕まえて壕の一番奥へとびこんだ。もうそのとき、

ピカッーと光ってしまった。そして僕は、強い風で、壕の壁にたたきつけられた・・・。

しばらくして、僕が防空壕から、外をのぞいてみたら――

――運動場いちめんに、人間がまいてあるみたいだった。

お父さんは、待てども、待てども、現れなかった。

妹たちはあくる日に死んだ。

お母さんは――――お母さんもそのあくる日に死んでしまった。

それから――兄さんが死んだ。僕も死ぬと思った。――
――防空壕の中で、並んで寝ている誰もがみんな死ぬんだもの・・・。

生き残った人たちが、運動場に木を集めてきて、そこでたくさんの死がいを焼いた。

兄さんも焼かれた。お母さんも、見る見るうちに骨になって、おきの間から下へポロポロ落ちた――

僕は泣きながら、じっとそれを見ていた。

僕は、山里小学校に入った。今は四年生だ。あの運動場はすっかり片付いて、たくさん
の友達が大よろこびで遊びまわっている。あの友だちは、ここでたくさんの子供が
死んで、焼かれたことを知らない。

どうかした時には、ふっと、あの日のことをおもいだす。

そして、お母さんを焼いたその所にしゃがんで、その土を指でいじる。

竹で深いいじると、黒い炭のかけらが出る。そのところをじっと見ていると、土の
中にボーっとお母さんの顔が見えてくる。他の子供がそのところを足で踏んで歩
くを見ると、腹が立つ。

運動場へ出るたびに、僕は、あの日を思い出す。運動場は懐かしい。そして悲しい。



D 広島 末次君子の手記「あの空を仰いでみたい」より
君子は被爆したとき小学校二年生でした。この年後の昭和三十六年九月に白血病のため
広島原爆病院に入院しました

A 明日も輸血が入りますように
白血球よ おまえ そんなに増えないでくれ
今日は二月五日 入院して四か月と二十八日 次は半年
一年

お母さん よくなることがあるかしら
今は 悪いことばかり
死ぬんなら 早いほうがよい
でも 本当は よくなりたい
死ぬんなら 今日じゅうがよい
胃腸が四六時中張ったよう
顔がむつかしい
口の中が気持ちわるい
足先がもえるよう

いま よいところがないんです
病んで 苦しんで死ぬのはいやだ
もう一度 普通の娘になってみたい
お母ちゃん お母ちゃん お母ちゃん お母ちゃん お母ちゃん
藤本先生

石田先生
試験台でもかまわない どうしてもなおしてほしい
よくなることがあるかと明日を楽しみにするよう

C いや もっと先の先を目標に闘病生活をしようと思いますが とても苦しいです
本当は もっと短気で すぐ泣けてきて
明日をのんびりわすらって苦しいんです
あの服と あのパンプスで
あの青空を仰いでみたい

A 私は だれにも文句を言おうとは思いません
よくなろう
生きよう
生きぬこう

D (昭和三十七年二月十六日死亡 享年 二十五歳) (二分二〇秒)

C これ、この前読んだ記事なんだけど、ガザのジャーナリストのサイフィさん。四月三日に避難していたガザ市の学校が爆撃され、その場にいた四歳、十歳、十三歳の三人の子供を一度に失ったの。ここ読んで。

D 「F15戦闘機から放たれたミサイルがオサマの頭を切り落とし、ヌールの体は蒸発し、リタルは右手以外がすべて消えました」

C この右の写真が爆撃前のオサマくん。

E 左は顎を失ったお母さん・・・

C ここ読んで



- E 「私は命こそ助かりましたが、今は碎かれた母の心で、子どもたちの名前を記憶と良心に刻みながら、一瞬一瞬を生きています」
- B 自分が殺されたとしたら、300人の中の一人ってどういう嫌だなあって思う
- D どういうことですか？
- C あ、わかる！広島に落とされた原爆で〇〇人が死んだとか今日ガザで〇〇人の子供が殺されたとか報道されるけど、一人一人に顔があって D 声があって E 物語があって、
- B それをちゃんと考えると、現地で何がどんなことが起こっているのかがもう少し想像できて見えるようになるかも知れないよね。
- D そうすると、関心を持つようになる！
- A そうだね！そうして遠くで起こっていることじゃなくて身近なこととして一人一人が考えてみんなで話していくことが大切だね。
- C パレスチナだけじゃなくて、世界ではウクライナを始めとしてシリアやアフガニスタンなどたくさんところで紛争が起きているもんね。
- B 平和の反対は何だか知ってる？
- C どうしたの？急に
- B 「平和の反対は無関心である」エリー・ヴィーゼルというノーベル平和賞受賞の作家の言葉。
- 全 そうかあ・・・
- E いろんなことを積極的に学んで知って、みんなで色々話さなくちゃ！ ですね。
- 全 その通り！



